



生誕 180 年 「郷土の偉人・小田為綱」 ～為綱、明治時代を駆け抜ける！～

久 慈市宇部町出身の偉人「小田為綱」。為綱は、教育者・経世家・反権力者、政治家など多面的な顔を持つ。幕末から明治維新の激動期に活躍し、近代国家日本を築いた面々たちと一緒に活躍していました。今年是小田為綱が生れて180年の節目。三陸に夢を描き続けた明治人小田為綱の遺志を、私たちはどのように受け継いでいったらよいのでしょうか。

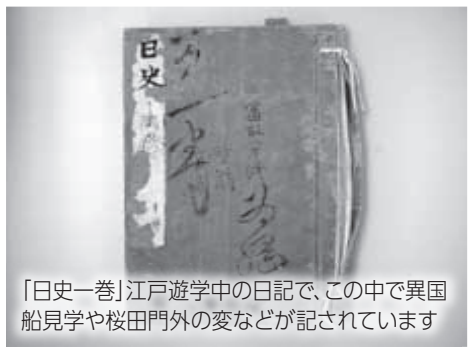
1・少年為綱、百姓一揆の地に生まれる

小田仙弥（為綱）は天保10年（1839）野田通り宇部村に生まれました。小田家は代々野田代官所の御給人を務める家柄で、祖父、父は上に物申す気質があり、いく度か罷免と復職を繰り返しました。為綱は地元の大崎塾で「豪気学二志」、その才能はみんなの認めるところとなっていました。

為綱は、日本最大級とされる三閉伊一揆を少年期に体験することになります。嘉永六年一揆（1853）の翌年、父継弥は「言をもつていきます。」

て罪を得」、金田一に左遷されることになりました。その理由は明らかではありませんが、一揆に関わったと推測されます。為綱は父に同行しました。封建支配体制のひずみ、百姓たちの意識の高まり、父の左遷などの出来事は、少年為綱を政治や社会への矛盾に目覚めさせていきます。どうしたらこの矛盾を解消できるのか。どうしたら人々の暮らしが楽になるのか。後年の経世家（※）為綱の思想形成に大きな影響を及ぼしました。

その後、さらに学問を広めるために盛岡へ出て漢学を学びます。為綱は成長とともに、ますます外へと関心が広がっていきます。盛岡だけでは納まり切れないほど、学問への探求心はさらに高まっていくことになりました。

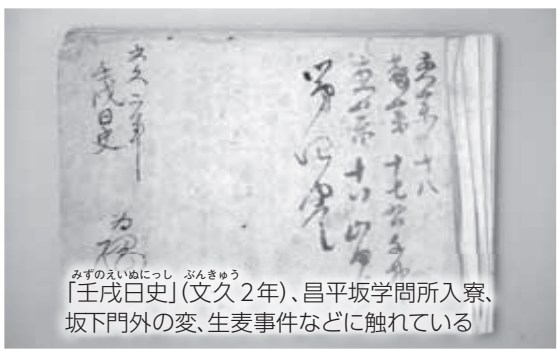


「日史一巻」江戸遊学中の日記で、この中で異国船見学や桜田門外の変などが記されています

為綱は、横浜の異人館や英国、米国の異船を目の当たりにします。さらに遊学中、桜田門外の変、和宮降嫁、坂下門外の変、生麦事件が起こるなど、為綱の関心は日本にとどまらず、諸外国との外交へも関心が拡大していくようになります。

2・青年為綱、横浜で異国船を見る
安政6年（1859）、為綱はかねてからの思いを断ち切れず、江戸遊学を決意し上京。

語るだけではなく、藩の為綱に対する期待の大きさを表しています。為綱は水戸学の藤田東湖に大きな影響を受け、さらに儒学者芳野金陵の塾に入って学ぶなど、その探究心は衰えることを知りませんでした。



「壬戌日史」(文久2年)、昌平坂学問所入寮、坂下門外の変、生麦事件などに触れている

文政2年（1862）、為綱は各藩の秀才が集結する「昌平黌」へ藩からの支援のもと入寮。この年、為綱は盛岡藩邸大広間で家老以下に「大学」を講義し、その2年後には藩主南部利剛の御前で同じく「大学」を講じました。これらは為綱の非凡さを物

古い支配体制の矛盾が噴出する土地で育ち、物申す精神を受け継いだ為綱は、矛盾の原因を突き止めどうしたら解消できるかを考え続けた生涯でした。

その後為綱は教育者、憂国者、経世家、政治家となりましたが、その根底に流れる思想は、この少年期、青年期に育まれたものと思われれます。



屋号の由来でもある「いちようの木」と「小田為綱生誕之地」碑